

第4学年 道徳学習指導案

日時 平成20年9月26日(金) 5校時

対象 男5名 女5名 計10名

指導者 第4学年担任

1 主題名 相手の身になって〔思いやり・親切 2－(2)〕

2 資料名 おさなかつた車いす (出典：学習研究社4年「みんなのどうとく」)

資料・一部改作

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の指導項目2－(2)は、「相手のことを思いやり、親切にする。」である。この内容は、相手の気持ちを理解し、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てるものである。これは、第1学年及び第2学年の内容項目2－(2)「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。」を受けたものであり、第5学年及び第6学年の内容項目2－(2)「だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。」に発展していく。

社会生活を営んでいく上で思いやりの心は、好ましい人間関係を築く基礎になる。思いやりの心とは、「困っている人がいたら、助けたいと思う心」「喜んでいる人がいたら、一緒に喜びたい心」など、相手の心を自分の心に映しだして考えてあげられる心である。親切にするとは、相手に対する思いやりの心を行動に移すことである。親切にする行為の背景には必ず思いやりの心が存在している。相手の心を感じる力を鍛え、相手の立場に立って励ましたり、援助したりできる実践的な態度を育てることが大切である。

この時期の児童は、徐々に相手の立場に立って物事を考え、相手の気持ちを理解できるようになる。そこで、この段階において、相手に対する思いやりの心を育て、親切にするという行為も相手のことも考えたものになるよう指導していくことが必要である。そして、進んで親切にしようとする気持ちを育てていくことが大切であるとする。

(2) 児童について

学級の児童は、明るく元気いっぱいである。困っている友達に、優しい声をかけることができるが、まだその判断は自己中心性によるところがある。また、思いやりの心を行動に移し、友達や身近にいる人に対しては親切にできても、純粋に相手のことを考えての行為には至っていない。

そこで、相手の立場に立って気持ちを考え、優しい行為をすることが親切であるという考えに加え、相手を見守ることが親切な場合もあるという考えに広げ、深めさせる機会にしたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公の順子が特別養護老人ホームを訪問したときの出来事を描いた資料である。施設内見学のとき、順子は、スロープを車いすで苦労しながら進んでいくおばあさんを見かけ、親切心から車椅子を押してあげようと手をかけたとき、介護士からやめるよう注意を受ける。その理由を聞いた順子は、介護士からおばあさんは今、車いすを自分で動かそうとがんばっているから手を貸さないでほしいという話を聞いて自分の行動を恥ずかしく思う。その後、おばあさんと介護士の会話を耳にして、順子は励ましの気持ちをもった。順子の親切にしたいという気持ちに共感させながら、相手の立場を考え、本当の親切とは何かを考えさせることができる資料である。

(4) 研究との関連

	仮説1	仮説2
	体験活動を生かした授業の工夫	校内での協力的指導(TT)
具体的支援・指導	これまで訪問した老人介護施設での活動を想起させた、資料導入。	養護教諭と役割読みをし、T2として発問や体験談を話してもらい自分たちの生活へ導く。

(5) 指導にあたって

事前に総合的な学習の時間で、特別養護施設に2度訪問をしている。訪問では、児童は楽しく触れ合いたい、喜んでもらいたいという思いで、学校生活の様子を発表し、次はもっと喜んでもらいたいという気持ちになっている。

気づく段階では、特別養護老人施設訪問での活動を想起させ価値への方向付けを図る。

見つめる段階で、自分たちの訪問時の思いと重ね、順子が思いやりの気持ちから車いすを押してあげようとする心情に共感させる。

つかむ段階で、これまで訪問した特別養護老人施設の介護士の姿を想起させながら、資料の介護士がお年寄りの心にくみとり、思いやりの気持ちで接していることに気付かせる。また、養護教諭がT2として介護士の気持ちに気づかせる補助発問をし、主人公の心情を深くとらえさせたい。

広げる段階では、思いやり・親切のある体験をしたことを発表する。

まとめる段階では、養護教諭の話聞き、思いやり・親切とはどんなことであるとはっきりとさせ、思いやりの気持ちをしっかりとめたい。

事後の活動として、3回目の特別養護老人施設訪問の、児童の意識を高めることができる考える。

4 本時指導の位置付け

事前の体験活動	本時の指導	事後指導
○総合的な学習の時間 「特別養護老人ホーム訪問」 第1回訪問 ふれあい活動や班ごとに作った新聞発表 第2回訪問 カンナの花のプレゼント お話交流	主題名 相手の身になって 価値 思いやり・親切 2－(2) 資料名 おさなかつた車いす ねらい 相手の立場や気持ちを考え、思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。	○総合的な学習の時間 第3回訪問 出前劇の発表

5 本時の指導

(1) ねらい

相手の立場や気持ちを考えて、思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
気づく5分	1. 高齢者と交流した体験を想起させる。 ○特別養護老人施設訪問ではどんな願いを持って、どんなことをしましたか。	・みなさんに喜んでもらいたいという気持ちで行った。 ・カンナをプレゼントしたらすごく喜んでくれた。	・総合的な学習の時間で特別養護老人施設を訪問したときに、お年寄りや接したときの思いを想起させる。(研究内容1)

見 つ め る つ か む 2 5 分	<p>2. 資料を読んで感想を発表し、本時の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 帰りのバスの中で、順子は、どんなことを考えていたのでしょうか。 </div> <p>3. 順子の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○順子は、スロープを車いすで進もうとしているおばあさんを見つけて、どう思ったでしょう。</p> <p>○順子は介護士に手伝うのを止められ、その理由を聞いて、どのような気持ちになったのでしょうか。</p> <p>○介護士とおばあさんの会話を聞いた順子はどのような気持ちになったでしょう。</p> <p>◎順子は、帰りのバスの中で、どんなことを考えていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大変そうだな。 ・手伝ってあげたい。 ・かわいそう。 ・勇気を出して押してあげよう。 ・おばあさんが大変そうなのに何で手伝ったらいけないんだろう。 ・自力でがんばっているところなのに手伝おうとしたのは恥ずかしい。 ・手伝ってあげることは、今のおばあさんにとっては親切にならない。 ・介護士はおばあさんのことを思っているんだな。 ・相手のことをよく考えているんだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの気持ちになってお世話していた。 ・相手の気持ちを考えて行動することが、本当の親切だ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に児童に資料を読み聞かせている。 ・T2と役割読みをすることにより、内容理解をやすくする。(研究内容2) ・子どもたちの感想をもとに課題を設定する。 ・施設訪問での体験を思い起こさせ、おばあさんに親切にしてあげたい順子の気持ちに共感できるようにする。(研究内容1) ・手伝うのを止められた驚きをおさえた上で、考えの足りなかった行為を恥じていることをとらえる。 ・T2は場面把握をやすくするように補助発問をする。(研究内容2) ・介護士がおばあさんの立場や気持ちを考えていることに順子が気付いたことをおさえる。 ・訪問した施設の介護士の様子も思い起こし、資料の介護士が、お年寄りの心を感じ取り思いやりの心でお世話していることに気付くことができるようにする。(研究内容1)
広 げ る 6 分	<p>4. 思いやり・親切にした体験を発表する。</p> <p>○相手の立場に立って思いやりの心をもって、親切をしたことがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟が転んで泣いていたけど、自分で起きろといった。 ・特別介護老人施設で、お年寄りに優しく話しかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に思いやり・親切にしたという経験を発表し合うことで、今後の活動につなげていく。
ま と め る 9 分	<p>5. 養護教諭の話聞く。</p> <p>6. 学習の振り返りをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心の大切さやよさなどに気付き、進んで親切な行動に移せる意欲をもたせる。(研究内容2)

